

2008年3月期 第3四半期決算 電話説明会 説明概要

「2008年3月期 第3四半期決算 補足資料」をもとに説明致しましたので併せてご覧ください。
お手元にない場合は、お手数ですが当社 IR サイトよりダウンロードをお願いいたします。
<http://www.olc.co.jp/ir>

- ・実施日 2008年2月7日（木）
- ・説明者 経理部長 横田 明宜

【連結業績】

まず、補足資料左側の連結損益計算書を簡単に確認させていただきます。

当四半期は、前年同期と比較して、

- ・売上高は、0.3%増の2,667億円、
- ・営業利益は、6.9%増の372億円、
- ・経常利益は、8.5%増の346億円、
- ・四半期純利益は、11.9%増の207億円

と増収増益となりました。

【セグメント別売上高】

セグメント別売上高とその増減要因について説明します。

- ・テーマパーク事業は、5千万円増の2,247億円、
- ・複合型商業施設事業は、2千万円増の177億円、
- ・リテイル事業は、6億円減の127億円、
- ・その他の事業は、13億円増の114億円

となりました。

増減要因について説明します。補足資料の右側をご覧ください。

テーマパーク事業

入園者数は減少したものの、ゲスト1人当たり売上高の増加により、テーマパーク事業の売上高は、ほぼ前年同期同様となりました。

入園者数及びゲスト1人当たり売上高の前年同期差異については、右側の表をご覧ください。

入園者数は、若干下回りました。主な減少要因としては、好評を博した東京ディズニーシー5周年の翌年であることが挙げられます。

但し、ゲスト1人当たり売上高は、前年同期に比べ若干上回りました。商品販売収入が、東京ディズニーランド商品店舗リニューアル工事の影響などにより下回った一方、チケット収入において、2006年9月に行ったチケット料金改定の効果により上回ったことから、若干上回りました。なお、東京ディズニーシー・ホテルミラコスタの客室稼働率は前年同期とほぼ同様となりました。

複合型商業施設事業

ディズニーアンバサダーホテルにおいて、前期に実施した客室などの全面的なリニューアルを当期は実施しなかったことなどにより、客室稼働率が若干上回り宿泊収入が増加した一方、より高いサービスを提供すべく婚礼組数をコントロールしたことなどから宴会収入が減少し、ほぼ前年同期同様となりました。

リテイル事業

店舗数が減少していることなどから商品販売収入が減少し、6億円の減となりました。
リテイル事業については、後程、補足させていただきます。

その他の事業

4月よりモノレールの運賃改定を行ったこと、また、映画関連収入や飲食販売収入の増などにより、13億円増となりました。
なお、パーム&ファウンテンテラスホテルの客室稼働率は、前年同期を若干下回りました。

次に、営業利益について説明します。

売上高が、前年同期比0.3%増となった一方、売上原価は0.9%減と抑制出来た為、営業利益は6.9%増の372億円となりました。

【セグメント別営業利益】

セグメント別営業利益とその増減要因について説明します。

- ・テーマパーク事業は、16億円増の338億円
- ・複合型商業施設事業は、2億円増の15億円
- ・リテイル事業は、5億円増の営業損失7千万円
- ・その他の事業は、2億円減の16億円

となりました。

増減要因について説明します。補足資料の左側中段をご覧ください。

なお、第3四半期でセグメント別営業利益を開示させて頂くのは、はじめてとなります。

テーマパーク事業

テーマパークにおける販促活動費などの固定費の低減や人件費の減少により、増益となりました。

複合型商業施設事業

前期に発生したディズニーアンバサダーホテルの客室などの全面リニューアル費用が当期は発生しなかったことなどから増益となりました。

リテイル事業

売上高は減少した一方、前期より引き続き推進している費用構造改革の効果により、営業損失が縮小しました。後程、売上高と併せて補足します。

その他の事業

売上高が増加した一方、映画関連費用や本年オープンする東京ディズニーランドホテルやシルク・ドゥ・ソレイユ シアター東京の開業前準備費用が発生したことなどから減益となりました。

なお、資料左側の右端に⑤と記載している部分がございますが、こちらは売上原価の人件費と諸経費間において、「エンターテイメント・ショー出演者の雇用契約変更」に伴って、振替が発生したことによるものです。

【経常利益・四半期純利益】

営業利益の増加に加えて、有価証券利息の増などにより営業外損益が3億円の増益となった為、経常利益は8.5%増の346億円となりました。

四半期純利益も、経常利益の増加により11.9%増の207億円となりました。

以上が、第3四半期決算の内容となります。

【補足情報：リテイル事業】

リテイル事業について補足をさせていただきます。

補足資料右側中段の補足情報をご覧ください。

左のグラフは、売上高の「四半期別 前年同期比の推移」を表したグラフとなっています。

当四半期の売上高は、先述した通り、第2四半期は前年同期レベルまで回復したものの、第3四半期では、前年同期を下回りました。

クリスマス期の販売強化や会員向けキャンペーンの展開など販売促進活動の強化を図ったものの、店舗数減少や個人消費における消費マインドの悪化による既存店売上高の減少などにより下回る結果となりました。

但し、営業利益は右のグラフ「四半期別 前年同期差異の推移」通り、前年同期を上回りました。売上高は減少した一方、費用面において、前期より取り組んできた費用構造改革のコスト改善効果として、当四半期では3億円効果が出ました。その主な費用の内訳は、店舗賃料、物流費、本社オフィス賃料、人件費などとなっています。

【総括】

総括をさせていただきます。

第3四半期決算（対前年同期比較）

テーマパーク事業において、入園者数は減少した一方、ゲスト1人当たり売上高が増加したことに加えて販促活動費など営業費用が減少したことから、前年同期と比べて増収増益となりました。また、リテイル事業においても、売上高は減少したものの、費用構造改革により営業損失は改善しました。

第3 四半期決算（対業績予想比較）

数値は開示していませんが、売上高はほぼ予想通りとなったものの、営業利益はテーマパーク事業における費用の時期ずれが発生したことなどにより、上回って推移しました。

通期の業績予想について

第3 四半期決算を踏まえた通期の業績予想についてですが、費用の時期ずれやテーマパーク入園者数に対する天候リスクなどを踏まえ、現時点では、11月に発表したものから変更しません。

なお、第4 四半期のみを見ると、営業利益が前年同期と比べて大幅な減益予想となりますが、これは、テーマパーク事業において入園者数の減少による減益に加え、税制改正に伴う減価償却費の増や3月に行うこととなった準社員時給改定に伴う人件費の増、また東京ディズニーシー・ホテルミラコスタの全面リニューアル費用の発生、そしてその他の事業において新規施設の開業前準備費用を見込んでいることなどによるものです。

以上